様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25年６月１８日現在

機関番号：３２６７３
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２３３０１７１
研究課題名（和文）　地域変動下の地域ケアミックスの課題と可能性
—ケアリング関係の視点からの高齢者支援
研究課題名（英文）　Challenges　and possibilities of local care mix under social change: Support for the elderly from caring relationships perspectives
研究代表者
山口　麻衣（YAMAGUCHI MAI）
ルーテル学院大学・総合人間学部・准教授
研究者番号：30425342

研究成果の概要（和文）：
社会変動は高齢者の生活に影響を与えており、つながりの乏しい、限られた地域資源の中で暮らす高齢者は困難に直面しながらも、地域社会への包摂を支える地域保健医療間の多様な連携による柔軟な対応により、セルフケアやインフォーマルケアも含めた資源の活性化がなされていることがあきらかになった。地域ケアミックスに着目し、地域包括ケアの課題やセルフケアを含めた連続体としての理解が改めて重要なことがわかった。

研究成果の概要（英文）：
In a local community with limited social network and resources due to the impact of social change, the elderly residents experience daily difficulties. Under those situations, we found that the flexible coordinating function and collaboration among health and social professionals in the community contributed to the activation of the scarce care resources in a super-aged community. It is important to understand integrated community care and continuum of care from the view point of local care mix.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	2,300,000	690,000	2,990,000
２０１１年度	2,500,000	750,000	3,250,000
２０１２年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
総　計	6,300,000	1,890,000	8,290,000

研究分野：社会学
科研費の分科・細目：社会福祉・高齢者福祉
キーワード：高齢者福祉　地域ケア　ケアミックス　ケアリング関係　高齢者　生活支援　高齢者ケア　地域包括ケア

１．研究開始当初の背景

(1) 社会経済情勢悪化、介護保険制度改編、自治体再編などの地域変動下、ケア資源の地域差が生じ、地域高齢住民の生活基盤自体が脅かされている。

(2) さらに高齢者自身の階層、家族関係、ジェンダーなどの違いによる地域内ケア資源格差も看過できない。

２．研究の目的

本研究の目的は、地域におけるインフォーマルなケアも含めた多様なケア形態を地域ケアミックスととらえ、ケアの受け手と担い手の相互関係に着目したケアリング関係の視点から、地域変動が地域ケアミックスとケア資源を活用する高齢者の生活にどのような影響をもたらしているのか、地域フィールド研究を中心とした実証研究から明らかにすることである。同時に、脱普遍化・家族再評価・市場化の進む北欧モデルとの比較から理論的検討を行いながら、地域差や地域高齢住民のケア資源の多寡をふまえた上で生活を支えうる地域ケアミックスの課題と可能性を探る。

３．研究の方法

３領域の研究を行った（図１参照）。

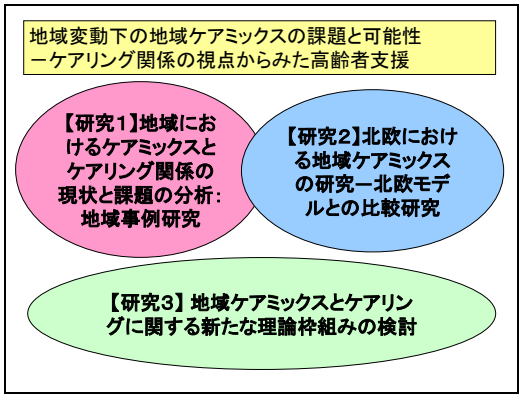

図１　研究の概要

(1)【研究１】地域におけるケアミックスとケアリング関係の現状と課題の分析

過疎地と都市部の地域事例分析を行う。

①過疎地（Y 市）調査：

■Y 市高齢者家族調査(2010＆2012)

2010 調査:高齢者 17 名(女性 12 名男性 5 名),平均年齢 80.8 歳（SD=6.9）半構造化面接

2012 年調査：介護サービス利用の 80 代以上の高齢者 4 名（男性 2 名,女性 2 名）

■福祉関係者調査（2010＆2012）

半構造化面接,ケアマネ、行政関係者等対象

②都市部（A 市）調査

■A 市高齢者家族調査（2010＆2012）

2010 調査：75 歳以上の居宅介護保険サービス利用高齢者 15 名（平均年齢 88.5 歳）とその家族介護者 16 名。半構造化インタビュー。

2012 調査：量的調査回答者のフォロー調査

■B 集合住宅居住高齢者量的調査(2011)

参加型手法による訪問面接調査法、A 市の B 団地居住高齢者 429 名、有効 N=196 名、有効回答率：46.0%、平均年齢＝75.8 歳(SD=5.5)

(2)【研究２】北欧における地域ケアミックスの研究―北欧モデルとの比較研究

■文献研究

英語文献、日本語文献及び認知症ケアや民営化に関する資料・報告書の和訳

■フィンランド現地調査（2011）

介護施設、ケアワーカー養成校などの訪問調査、フィンランドのケア研究者との研究ワークショップ、国際学会報告

■スウェーデン現地調査(2012)

介護施設、高齢者住宅訪問調査、自治体行政高齢者担当インタビュー調査、国際学会報告

(3)【研究３】 地域ケアミックスとケアリングに関する新たな理論枠組みの検討

■文献研究

ケアリング研究、ケアミックス、地域包括ケア、連携などに関する研究動向レビュー

４．研究成果

(1)【研究１】地域におけるケアミックスとケアリング関係の現状と課題の分析

過疎化の進む Y 市では、限られた資源で問題に直面しながらも、地域社会への包摂を支える地域保健医療連携、高齢者住宅や緊急時の取り組みなど、多様な連携による柔軟な対応により、セルフケアやインフォーマ ルケアも含めた資源の活性化がなされているこ

とがあきらかになった。

Ａ市でのＢ団地居住高齢者は独居が多く社会関係は多様だが支えあいの思いもあること、利用者と家族の調査からは、資源の比較的ある都市部でも重度化や認知症により家族介護者が困難に直面しており、利用者と介護者双方への支援が必要なことがわかった。

＜分析 1－1＞インフォーマルケアとセルフケアを活性化するフォーマルな支援―ケアリング関係の視点からの地域ケアミックス

Ｙ市において地域生活を継続している高齢者へのインタビューの結果から，フォーマルな支援があることによりインフォーマルケアやセルフケアが維持・継続・活性化することがうかがえた。（表１）

表１　FC による多様な資源による活性化

FCによる多様な支援
きめの細かいサービスのアレンジや調整
専門職によるサービス以外のちょっとした手助け
寝たきりになったときの安心感の提供
緊急時の迅速な対応
家族を失った際のケア
ニーズのある他の家族も含めたトータルな家族支援

＜分析 1－2＞大都市団地居住高齢者の社会関係と生活ニーズ充足のためのソーシャルサポート：ライフコースとケアリング関係の視点からの分析

①生活ニーズのある人（全体の１割弱）の 2-3 割以上に支援者がおらず、有支援者の 2 割弱が家事、買い物、ゴミだし、当番の場合に近所の人を担い手としてあげた（複数回答）、②困りごとの相談相手がいない人は 2 割弱で、男性の方が女性より有意にいない割合が高い、③ロジスティック回帰分析の結果、独居、男性、近隣ネットワークが小さい方が相談者がいない確率が高いことがわかった。

＜分析 1－3＞災害時、緊急時、日常における地域の支えあいの可能性と課題：大都市の団地居住高齢者の支えあい意識の分析

①独居高齢者の場合、災害時は 20.2%、緊急時は 15.6%が支援者なしと回答したこと、②近所の人（複数回答）の回答は、災害時（35.4%）の方が緊急時（25.1%）より多いこと、③災害時・緊急時の近隣からの支援に関するロジスティック回帰分析の結果、所得が低く、協力への思い強いほど、災害時・緊急時に近隣を支援者と認識する確率が高まることがわかった。（図２＆３）

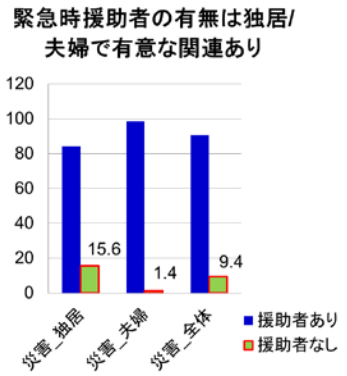

図２　緊急時の援助者の有無

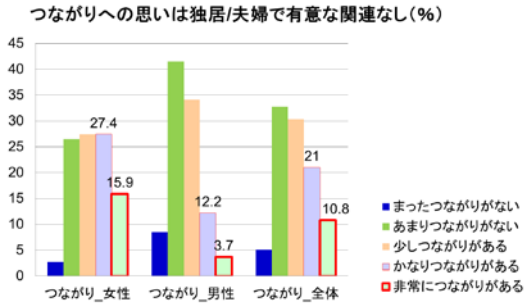

図３　男女別のつながりへの思い

(2)【研究２】北欧における地域ケアミックスの研究―北欧モデルとの比較研究

北欧における地域ケアミックス、暮らしとケア、住まいを軸とした脱施設化の流れ、民営化・市場化の課題、インフォーマルケアの位置づけなど日本と同様な課題への対処があり、日本への示唆が得られた。

北欧と日本では、国レベルの福祉レジームや人口規模や高齢化の状況は異なるが、両者ともに市場化や制度の再構築によりインフォーマル化を推進しようとする動きがある点で共通点があり、地域ケアミックスとして分析するアプローチの有用性が確認できた。

(3)【研究３】 地域ケアミックスとケアリングに関する新たな理論枠組みの検討

本研究のテーマと関連のある介護の社会化やフォーマルとインフォーマルなケアの関連についてもレビューしたうえで、論点整理を行った。生活単位・空間としての地域（ローカル）という「場」とケアリング関係（図４）という「関係性」に注目することにより、地域ケアミックスとして多様な「資源」を活用することによる、地域包括ケアの課題やセルフケアを含めた連続体としての理解が改めて重要なことがわかった。

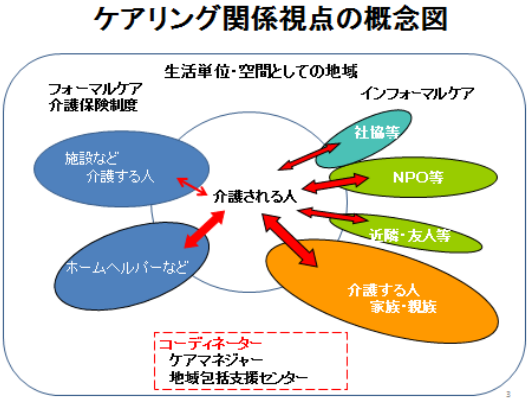

図４ケアリング関係視点の概念図
（笹谷 2012）

ケアリング関係の分析軸としては、５つ着目点（インフォーマル／フォーマル、**二者関係／多者関係、一方向／双方向、静態的理解／動態的理解、ジェンダー関係／血縁関係**）から分析軸をとらえることができる（表２）。

表２ケアリング関係の分析軸（山口 2012ａ）

	着目点	留意点
①	インフォーマル／フォーマル	独居高齢者―ヘルパーのケアリング関係も
②	二者関係／多者関係	受け手 1 名に複数の担い手のケアリング関係も
③	一方向／双方向	一人の人がケアの担い手かつ受け手のことも。
④	静態的理解／動態的理解	動態的にケアリング関係の変容・プロセスの理解
⑤	ジェンダー関係／血縁関係	同性、義理親子関係等による意味づけの違い

また、ケアリング関係の視点からの地域ケアミックス・アプローチの分析枠組みとしては、ボトムアップな地域ケアミックス論、日常生活の場に注目した地域ケアミックス論、ダイナミックな地域ケアミックス論が重要であることを論じた（表３）。

表３ケアリング関係の視点からの地域ケアミックス・アプローチの分析枠組み
（山口 2012b）

		着目点	主眼を置くべき論点
①	ボトムアップな地域ケアミックス論	関係性	なき「声の吸い上げ」
②	日常生活の場に注目した地域ケアミックス論	地域性	地域の実情を把握・理解
③	ダイナミックな地域ケアミックス論	プロセス性	資源の「活性化」の実態の理解

これらの視点から、夫婦間ケアリング、親子間ケアリング、義理の親子間ケアリング、その他のケアリング（老々ケアリング、認知症同士のケアリング、男性間ケアリング）など、多様なケアリング関係（図５）への理解が求められることが明らかになった。

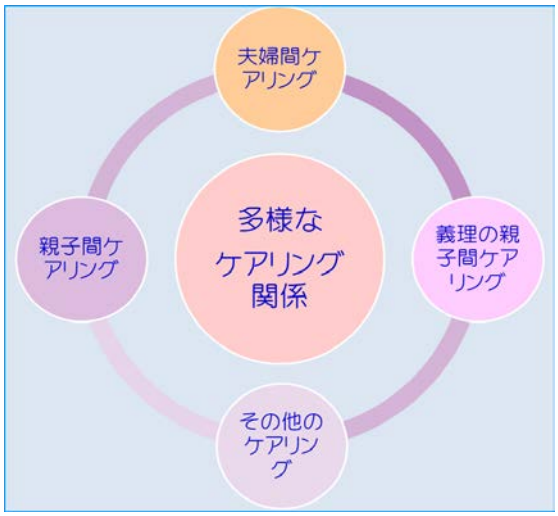

図５　多様なケアリング関係

研究期間中に東日本大震災がおこり、被災地のみならず、日本全体が大きな社会変動の影響を受けた。緊急時、災害時、日常における支えあいについて地域ケアミックスの観点からとらえると、日常性と非日常性、個人レベルと地域レベルの２軸でその連続性をとらえることができる（図６）。日頃のつながりによる支援と共に緊急時や災害時も含めた地域ケアミックスの検討が課題である。

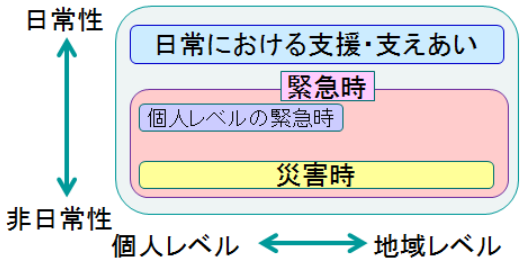

図６災害時、緊急時、日常における支援

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① 山口麻衣・森川美絵・山井理恵、災害時、緊急時、日常における地域の支えあいの可能性と課題―大都市の団地居住高齢者の支えあい意識の分析、査読有、日本の地域福祉、26、2013、81－91
② 山口麻衣・森川美絵・山井理恵、大都市団地居住高齢者の社会関係と生活ニーズ充足のためのソーシャルサポート：ライフコースとケアリング関係の視点からの分析、査読無、ルーテル学院研究紀要、46、2013、48－56
③ 山口麻衣、介護の社会化を改めて問う；地域ケアミックスとケアキャピタルに着目して、査読無、老年社会科学、33(1)、2011、82-87
④ 山口麻衣、フォーマルケアとインフォーマルケアの関連の研究とケア選好研究の接点、査読無、ルーテル学院研究紀要、44、2011、63－78
http://ci.nii.ac.jp/els/110008452472.pdf?id=ART0009692608&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1371134251&cp=

〔学会発表〕（計６件）

① M. Yamaguchi, S. Nagata, R.Yamanoi, H. Sasatani, M. Morikawa, A. Saito, Dilemma of moving housing for the elderly living in a housing complex in Japan: Care preferences and Care capital over their life course, June 25, 2013, The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Soul, Korea.
② M. Yamaguchi, S. Nagata, R.Yamanoi, H. Sasatani, M. Morikawa, A. Saito, July 10, 2012, Support for Cares who care the community-dwelling frail elderly in Japan: forgotten agenda in promoting “socialization of care”, Joint World Conference on Social Work and Social Development: Action and Impact, Stockholm, Sweden.
③ 山口麻衣・森川美絵・山井理恵、災害時、緊急時、日常における地域の支えあいの可能性と課題災害時、緊急時、日常における地域の支えあいの可能性と課題―東京都小金井市のＡ団地居住高齢者調査からの示唆―、2012.6.10、日本地域福祉会第26回大会、熊本学園大学

④ 山口麻衣・笹谷春美・永田志津子・山井恵・森川美絵・齋藤暁子、インフォーマルケアとセルフケアを活性化するフォーマルな支援―ケアリング関係の視点からの地域ケアミックス―、2011.6. 16、第53回日本老年社会科学会,東京（新宿）

⑤ M. Yamaguchi, S. Nagata, R. Yamanoi, H. Sasatani, M. Morikawa, A. Saito, Challenges in sustaining a dynamic local care mix for Japan's super-aged community: Focusing on caring relationships for community-dwelling frail elderly, May 20, 2011, Community, Work and Family IV International Conference, Tampere, Finland.

⑥ M. Yamaguchi, Perspectives of older persons on Local Care Mix in Japan: Difficulties under the pressure of re-informalization, International Workshop: Personalisation of Care in Japan and the UK, July 19, 2010, University of Bristol, UK.

〔その他〕

①ケアリング研究会のホームページ http://homepage3.nifty.com/caring/index.html

②実践への活用にむけたリーフレットの開発（2種類）（図７・図８）

図７　リーフレット１『ケアするあなたへの贈り物：あなたの「思い」に寄り添って～』

図８　リーフレット２『地域の支えあい：災害時、緊急時も、日ごろのつながりから』

６．研究組織

(1)研究代表者

山口　麻衣（YAMAGUCHI MAI）
ルーテル学院大学・総合人間学部・准教授
研究者番号：30425342

(2)研究分担者

笹谷　春美（SASATANI　HARUMI）
北海道教育大学・名誉教授
研究者番号：00113564
（H23→H24：連携研究者）
永田　志津子（NAGATA　SHIZUKO）
札幌国際大学・短期大学部・教授
研究者番号：60198330
山井　理恵（YAMANOI RIE）
明星大学・教授
研究者番号：40320824
森川　美絵（MORIKAWA　MIE）
国立保健医療科学院・研究員
研究者番号：40325999

(3)連携研究者

(4)研究協力者

斎藤　暁子（SAITO　AKIKO）
日本学術振興会